

図書館蔵書に対する評価は、その量よりも質にあることは言うまでもないが、その質的条件の中にもどのような稀観本（きこうぼん）

本館 **稀**

観

所蔵 **本**

世間に流通されていない珍しい書物が収蔵されているかがある。ついでに専門の立場から本館所蔵の稀観本を紹介することとした。

の中から

西洋服飾稀観書 (23)

いわゆる Ackerman's Repository

教授 (図書館長・西洋服装史担当) 石山 彰

19世紀前半のロンドンに、ひとときわ美しい美術印刷の版元とその販売で知られる「ルドルフ・アッカーマン」という出版社があった(図②)。何しろ印刷技法、とりわけ美術印刷はまだ未発達時代であるから、今日私たちが毎日のように手にしているダイレクト製版のカラー印刷などというのは、当時宇宙ロケットによる月面離着陸よりもっと程遠い彼方であった時代のことである。その頃の印刷の着色はほとんどが手彩色で、隆盛だったメゾティント版やアクアティント版の場合も、着色は手で施された。その頃としては画期的な石版印刷術も、まだようやく始まったばかりで、事実アッカーマンは、この石版による美術印刷術をイギリスに初めて確立し定着させた当の人物でもあった。もっとも石版術そのものは1796年から98年にかけて、ミュンヘンのゼネフェルダール Alois Senefelder (1771~1834) によって発明されたことは既に定説になっているが、その科学的処理法をロンドンに紹介したのはドイツ、オッヘン

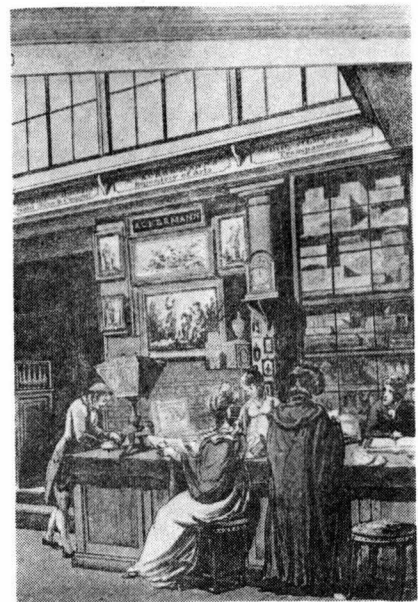
バッハのアンドレ氏であり*、またゼネフェルダールが着色石版術を可能にしたのは1826年になってからのことであった。

さて、ルドルフ・アッカーマン Rudolph, Ackerman (1764) は、ドイツ、ザクセン州、シュトールベルクの馬車・馬具師の家に生れ、のちパリを経てロンドンに定住し、出版人として成功した。彼が美術印刷に大きく貢献することになるのは、ドイツ人の銅版画家ハイデロフ Nikolaus Wilhelm von Heideloff (1761~1839) とのパリでのかいごう(邂逅)が契機になっている。というのも、ハイデロフの家系は3世代2世紀間に及ぶ優れた画家であり彼を特に有名にしたのは、イギリスで最も名高い創世紀のファッションブック The Gallery of Fashion (1794~1802) の作者——それは1794年4月、彼が35歳の時——としてであった。ここで取り上げる首題の雑誌も、ハイデロフの作画によって、当時としては稀にみるしょうしゃ(瀟洒)な手彩色の美術図

① 「アッカーマンの宝庫」の最初に登場するファッション・プレート 一八〇九年一月号 散歩服 白モスリンの朝の服の上に 金色ビロードのマント



② アッカーマンの店(部分) 天井は吹き抜けてガラス窓になっており 正面にアッカーマンの文字が見える 男女の顧客が楽しそうに版画を選んでいる



版を伴っていたので著名になった。正規のタイトルは次のとおりである。

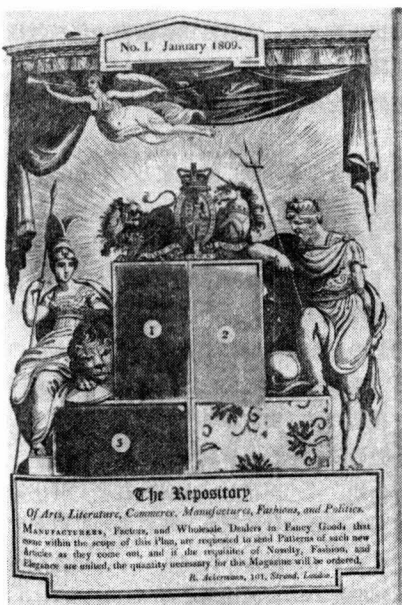
〔380. 5 R〕 The Repository of Art, Literature, Commerce, Manufactures, Fashion and Politics. 40 vols., London, R. Ackerman, 1809~1828. すなわち「美術、文学、商業、製造品、婦人服流行及び政治の宝庫」全40巻である。repository とは宝庫の意であり、したがって本書も一般には「美術の宝庫」または、「アッカーマンの宝庫」と呼ばれている。それにしても完揃というのは稀有であり、これには1809年から1828年までの900枚に及ぶ、当時の他誌を圧する魅力的な筆致の手彩色版画が収められている。これらの版画は技法的には銅版画（ビュラン版とアクアティント版が中心）と石版画に分けられ、主題別に見ると、街頭・建築・室内などの風景、乗物、家具・調度、動植物、肖像画及びファッションなどになる。中でもその半分の450枚以上がファッション・プレートで占められているのはまさに圧巻であり、それらのうちでも末期の1826年以降のものが特に優れているというのが識者間での常識になっている。事実、これらのプレートがいかに優れているかは、同時代のそれと比較することによって一層確実となる。

「アッカーマンの宝庫」は通例3期に大別されている。第1期は1809年1月号から1815年12月号まで

の1~14巻、第2期は1816年1月号から1822年12月号までの新1~12巻、第3期は1823年1月号から1828年12月号まで再新1~12巻、計40巻である。このように、本誌の刊行は20年間にすぎないとはいえ時代の格別な転期に当たっての20年を維持できたこと自体がむしろ例外的な存在で、パリ、ロンドン、ワイマール、ライプツィヒ、ウィーンなどの名立たるファッション誌以外はいずれも1年から数年で泡の如く消えていっているのである。割合長期に涉って維持できた理由の一つは、もちろん優れた画家ハイデロフらのユニークな美術図版によるが、更に重要な点は、本誌の刊行された時代の意味と背景である。この期はナポレオン1世（在位1804~1815）に因んで一般にエンパイア様式期といわれることは周知であるが、この様式名は通例ナポレオン1世の在位期間の前後を含めての約20年位をさすのが普通であるから、「アッカーマンの宝庫」はまさしくこの様式期の時代背景の探索にとっても事実上の宝庫であるのは間違いない。あのタテ線を強調した管状の服型が、何時頃どのようにして次のロマンティック様式へと移行し始めるのかが、微妙な変化を追って手にとるように知得できるのである。なお本誌の購入は私立大学研究設備助成によったことを謝して付記しておく。

* Repository of Arts, 1817年, 4月号, P. 225

③ 布地見本 本誌の副題に「製造品」とあるのは主にこの布地見本を差している。これによって注文することもでき、今の通信販売に似ている。一八〇九年



④ 一八二〇年三月号に登場するイブニングドレス。この頃からウエストが細まり、スカートにもふくらみが表れ始める。白サテンとクレープ地に黒絹のトリム

